地域外交と多文化共生の一体的推進

～　車の両輪で、内外の国際化を実現　～

朝鮮通信使ふじっぴー

1607年6月20日、徳川家康公は駿府城で朝鮮通信使一行を歓待しました。
本県は、毎年この日に、朝鮮通信使の意義を顕彰するお茶会を開催しています。

地域外交局

やさ日（にち）富士夫（ふじお）くん

様々な国籍・言語の外国人に対して、「やさしい日本語」は、
有効なコミュニケーションツールと言われています。

1.くらし・環境部での多文化共生（R1～R4）

○令和４年６月現在、**127か国・地域　約10万2,000人が在住**

○外国人県民の**生活上の困難を支える基盤整備に一定の成果**

（生活支援）	多文化共生総合相談センター「かめりあ」の設置・運営 新型コロナウイルス多言語相談ホットライン
（コミュニケーション支援）	情報提供に関するガイドライン整備 やさしい日本語の活用・普及 地域日本語教育の体制構築
（危機管理）	企業等と連携した防災講座の実施
（活躍支援）	外国人学校生徒の正規雇用に向けた支援

今回の組織改正は、５年前に戻ることが目的なのか？

2.今年は地域外交の巻き返しの年

○**ポストコロナ**で、止まっていた交流が再び動き出す！

・3年間の反動、リベンジによる経済効果を取りこぼさない。

○**東アジア文化都市**を契機とした本県のブランド力向上

○日本人人口が減少する一方で、**外国人人口は増加**

・2022年静岡県の転入超過数「住民基本台帳人口移動報告（総務省）」

全体▲4,658人（日本人▲6,038人、**外国人1,380人**）

浙江省訪問団が、コロナ後初の副知事表敬訪問（R5.4.13）

東アジア
文化都市
2023静岡県
Culture City of East Asia
2023 SHIZUOKA

日本の文化首都として、本県の魅力が広く世界に伝えられる

3.地域外交の目指す姿

○**県民、県内企業が経済的豊かさを実感できる**地域外交が必要

○**「国際的な人の流れの創出」＋「外国人の受入れから定着」**

＜「県地域外交基本方針」の目指す姿＞

静岡県 ⇔ 海外

1　世界で輝く”ふじのくに”
～多様な価値観を尊重する人材が育ち、国際的に存在感のある地域～

2　世界と繋がる”ふじのくに”
～世界各国・地域との連携による経済的に豊かな地域～

3　世界から選ばれる”ふじのくに”
～世界中から憧れられ、多くの人々が集い、活力に満ちた地域～

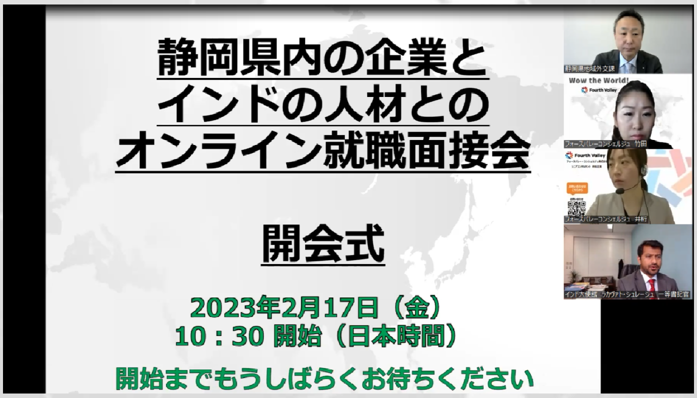
「活力取込み」には、
多文化共生課との一体的推進が必要！

4.活力取込みのための多文化共生

○**本県は国に先駆け、外国人材や海外の活力を積極的に取込み！**

・ビジネスインターン受入れ（タイ、モンゴル）
・中小企業と高度人材のマッチング等（インドネシア、ベトナム、モンゴル、インド）
・外国人介護人材の研修受入れ（インドネシア、モンゴル）
・外資系サテライトオフィスの誘致、「第二の故郷」創設支援　　・・・

ZOHOジャパン(インド)と川根本町住民とのインド料理を通じた交流
～「第二の故郷」創設支援～



県内企業とインド人材のオンライン就職面接会

呼び込んだ人材の定着、さらなる呼込みのための多文化共生

5.在留外国人が活躍できる多文化共生

○外国人県民の捉え方の変化

・「弱い人」「困っている人」という認識から、**「活躍する人」へ**

○令和5年度「外国ルーツの子どもの活躍支援」

・外国ルーツの子どもの課題把握調査、キャリア支援、ロールモデル提示・・・

ダブルリミテッド(＊)やロールモデルの不在などで、活躍の選択肢が狭められているとの指摘も。

（＊）中途来日等により、年齢相応に母語が発達しておらず、母語も日本語も十分ではない状態

・進学・就職につなげ、**将来の本県の活力を支える人材（人財）**に！

コンビニエンスストアでの職場体験
～令和４年度　ブラジル人学校未来応援事業～

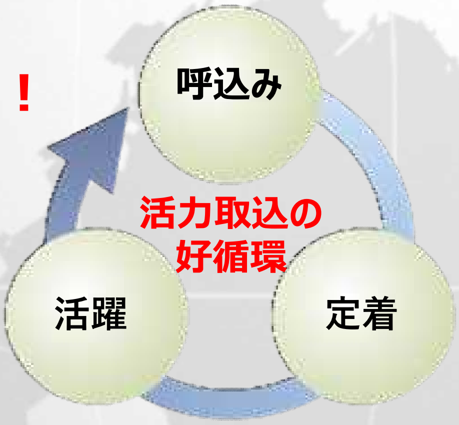
ブラジル人学校でのキャリア教育の実施
～　令和４年度　ブラジル人学校未来応援事業～

今後の展開

○今回の組織改正で、**活力取込みの好循環を作る体制に！**

○それに伴い、**多文化共生施策もバージョンアップ！**

訪れてよし！



住んでよし！

両課が車の両輪となって、内外の国際化に取り組み、
「世界から選ばれる"ふじのくに"」を実現します！